

ルポ

うどん発電 香川で始動

コシのある麺と滋味深い
ダシで全国的に人気が広が
る讃岐うどんを前面に押し

出し「うどん県」を掲げる
香川県。食べ残しのうどん
から「ご当地エネルギー」

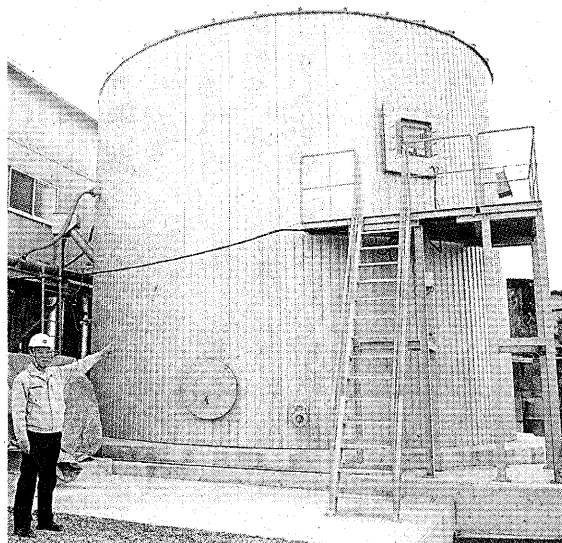
をつくらうという取り組み
が高松市で始まった。「う
どん発電」が香川県の新た
な名物となるかもしれない。

高松空港周辺に広がる田
園地帯を走る車窓から、緑
色のタンクが目に入った。

機械メーカー「ちよだ製作
所」が開発したうどん発電
プラントだ。4月から、本
格的に送電を始めた。

▽絶えない視察

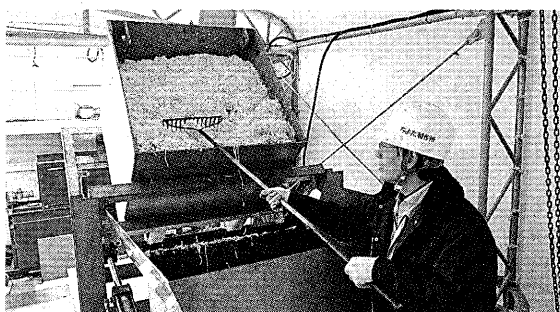
工場の一角に鎮座するタ
ンク内をのぞくと、粘り気
を感じさせる茶色い液体



廃棄うどんからメタンガスを作るタ
ンク＝高松市のちよだ製作所

機械メーカー社長 「捨てるなら利用」

発電に使うために回収
された廃棄うどん＝高
松市のちよだ製作所



が、ふつふつと泡立ってい
る。「メタン発酵装置から
ガスが発生しているところ
です」。案内してくれたの
は同社の技術開発担当の尾

崎哲夫さん。

興味を持って見学に来る
人がいるだろうと、特別に
タンクに窓を付けた。視察
に訪れる地方自治体関係者
などが絶えないという。

「うどんを食べ過ぎると
カロリー過多になると指摘
されているが、中にエネル
ギーを多く含んでいる証
拠。捨てるのであれば、利
用しない手はない」と同製
作所の池津英二社長。

うどん用小麦粉使用量が
年間約6万トという香川
県でセルフうどん店「空海
房」を経営する石丸英征社
長は「ゆでたてをおいしく
食べてもらうためには、か
なりの量を捨てるを得ない」と話す。廃棄うどんの
処理は、うどん店の悩みの

種だ。

ちよだ製作所に廃棄うどんを提供している地元で人気のうどん店「さぬき麵業」

では約5%にあたる年約150トを廃棄し、その費用は約450万円に上る。県内で同じ割合が捨てられていると仮定すると、約3千ト以上の小麦粉が捨てられている計算だ。

同社の香川政明社長は「うどんを橋渡しにエネルギーが循環するなんて、楽しいでしょう」と笑う。

▽発電量60万キロワット時

ちよだ製作所の装置は1日に約3トの廃棄うどんを処理することができ、発電量は600キロワット時以上。約3千トをすべて発電に回せば、その発電量は60万キロワット時。

一般家庭約180世帯分の年間の電力を賄える計算だ。

メタンガス発生に関与する細菌は、エネルギーの塊であるうどんだけでなく、野菜くずなどもバランス良く与えた方がたくさんガスを発生させることが分かっていた。

うどん発電を県内外に紹介するため、2012年に設立された「うどんまるごと循環コンソーシアム」（高松市）の久米紳介事務局長は「うどんだけでなく、お米でもお好み焼きでも生ごみであれば発電できる。ご当地の名物で、いろんな発電として広がってほしい」と話した。